

カリキュラム Curriculum	文学研究科MC		ナンバリング Numbering	
番号 Number	科目種別 / 学科目 Course title	転用科目 Substitute for	種別 Subject type	
217	基層文化論 <Foundation on Culture >		演習	
専攻 Major	担当教員 Instructor(s)	開講期 Semester	開講時間帯 Day and time	
日本文学	齋藤 文俊(SAITO, Fumitoshi)	後期	金曜：2限	
講義題目 Title	近代翻訳語法の研究			
単位 Credit	2			
備考 Others	専修			
履修条件 注意事項 Requirements for registration	実際の授業の進め方については、受講生の所属や専門に応じて、柔軟に対応していく部分もある。			
授業の目的 Purpose	<p>翻訳という行為によって生じた表現や語法、語彙について、実際の資料にあたって調査していくことにより、日本語への理解を深める。また、それによって、「国語」という科目を教授していく上での専門的な知識を修得することを目指す。</p> <p>This seminar examines ways of understanding and analyzing the history of translation in Japan through reading and discussing relevant thesis.</p>			
授業の内容 授業の方法 Content	<p>まず、テキスト『近代日中語彙交流史』（研究編）をもとに、日中における漢語の生成と伝播について学習する。次に、『翻訳語成立事情』（語誌編）にとりあげられている語の中から、各自が選んだ語を題材として、実際に自分でも調査することにより、翻訳語の成立と定着の過程を理解する。</p> <p>授業計画 第1回：翻訳と日本語（ガイダンス） 第2回：『近代日中語彙交流史』（研究編）第1章「日本語借用語研究概説」および・第2章「日本語借用語の研究史」のまとめと考察 第3回：『近代日中語彙交流史』（研究編）第3章「日本語との出会い」のまとめと考察 第4回：『近代日中語彙交流史』（研究編）第4章「西学東漸と日本語借用語」のまとめと考察 第5回：『近代日中語彙交流史』（研究編）第5章「中国語における日本語の受容について」のまとめと考察 第6回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「唾鈴」「演技」「音符」についての調査・発表 第7回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「戒厳令」「開発」「掛図」についての調査・発表 第8回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「加速度」「官能」「画報」についての調査・発表 第9回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「揮発」「休止符」「吸盤」についての調査・発表 第10回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「曲線美」「緊縮」「空想」についての調査・発表 第11回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「傾向」「化粧」「血圧計」についての調査・発表 第12回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「結晶」「幻覚」「幻想」についての調査・発表 第13回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「現行犯」「公安」「公園」についての調査・発表 第14回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「構思」「構図」「構想」についての調査・発表 第15回：『近代日中語彙交流史』（語誌編）「後天」「先天」「合金」についての調査・発表</p>			
教科書 テキスト Textbooks	沈国威（2008）『近代日中語彙交流史（改訂新版）』笠間書院			
参考書 References	<p>李 漢燮(2010)『近代漢語研究文献目録』東京堂出版 佐藤 亨（2007）『幕末明治初期漢語辞典』明治書院 惣郷正明・飛田 良文（1986）『明治のことば辞典』東京堂出版 小田切文洋（2008）『江戸明治唐話用例辞典』笠間書院 森岡健二（1999）『欧文訓読の研究』明治書院 柳父章（1982）『翻訳語成立事情』岩波新書（黄版189） その他、講義の中で紹介していく。</p>			

受講生の 自宅学習 Preparation and review	全員、発表で扱われる語について、自分の興味・関心のあることがらについて調べておくこと。
成績評価の 方法と基準 Evaluation	発表内容（40%）、学期末論文（40%）、授業中の発言（20%）
連絡方法 Contact information	メールなどで連絡があれば随時対応する。